

ちょっと気になるデータ

失業者

— 労働力調査(詳細集計)2021年平均結果から —

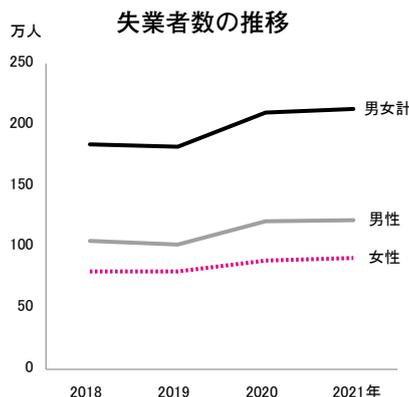
2022年2月15日に、総務省統計局から労働力調査(詳細集計)の2021年(令和3年)平均の結果が公表された。その中から失業者^{注1}の結果を紹介する。

2021年平均の失業者は213万人で前年に比べて3万人の増加、男性は122万人で1万人の増加、女性は91万人で2万人の増加となっている。

集計が開始された2018年以降の推移をみると、2020年以降は増加している。

失業者を仕事につけない理由別にみると、「希望する種類・内容の仕事がない」とする者が65万人(前年に比べて2万人の増加)と最も多く、次いで「勤務時間・休日などが希望とあわない」と「求人との年齢と自分の年齢とがあわない」が24万人(それぞれ同1万人の増加、3万人の増加)、「条件にこだわらないが仕事がない」が15万人(同1万人の増加)などとなっている。仕事につけない理由別割合^{注2}でみると、「希望する種類・内容の仕事がない」が31.0%、「勤務時間・休日などが希望とあわない」と「求人との年齢と自分の年齢とがあわない」が11.4%、「条件にこだわらないが仕事がない」が7.1%などとなっている。

仕事につけない理由別割合について、2018年以降の推移をみると、「希望する種類・内容の仕事がない」、「条件にこだわらないが仕事がない」とする者の割合は2020年以降増加している一方で、「賃金・



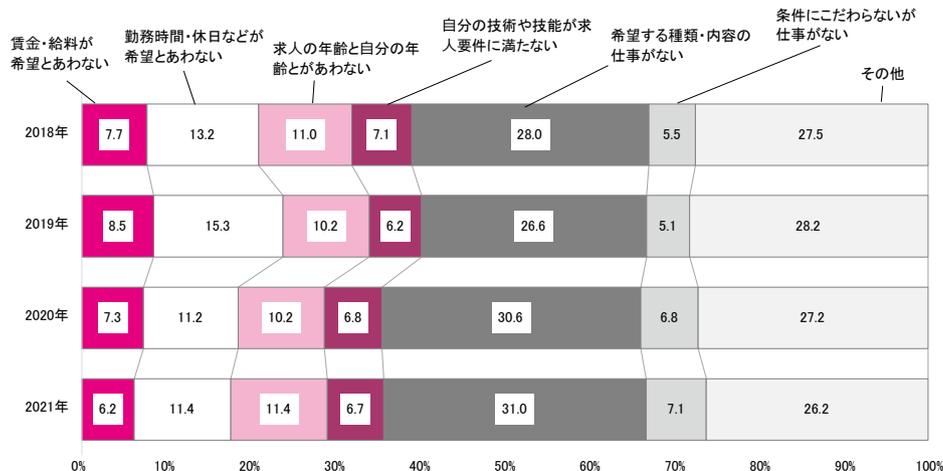
給料が希望とあわない」は減少している。

注1 ①仕事がなく調査週間に少しも仕事をしなかった(就業者ではない)、②仕事があればすぐ就くことができる、③調査週間を含む1か月間に、仕事を探す活動や事業を始める準備をしていた(過去の求職活動の結果を待っている場合を含む)、の3つの条件を満たす者。なお、「失業者」は、完全失業者の求職活動期間(月末1週間)を1か月に拡大したものであり、その他の要件については完全失業者と同様である。2018年から集計が開始されている。

注2 仕事につけない理由別内訳の合計に占める割合。

(調査部 統計解析担当)

失業者における仕事につけない理由別割合



注 割合は、仕事につけない理由別内訳の合計に占める割合。